

〔報告者〕

○中西 まり子（なかにし まりこ）

草津市国際交流協会（KIFA） 副会長



<プロフィール>

1996年 草津市国際交流協会のホストファミリー登録
1997年からアメリカの姉妹都市ポンティアック市からの交換留学生や 1998年から約10年間 ILEC（世界湖沼委員会）の研修生などのホストファミリーをする
1999年 KIFA 交流事業部会長就任
2001年 KIFA 副会長就任
2010年 KIFA 日本語教室（日本語ひろば）の開設メンバー
2011年 KIFA ビジョン策定委員としてビジョンの改訂に携わる
2013年 JIAM 地域づくりコース（入門研修）修了
2014年 JIAM 多文化共生マネージャー18期生 修了
2015年 文化庁地域日本語教育コーディネーター研修修了
2015年 日本初の外国人機能別消防団員誕生に関わるメンバー選定に関与
2015年～ 草津市人権擁護審議会委員、人権擁護推進協議会委員
2017年 JIAM 多文化共生マネージャー スキルアップコース修了

<所属団体紹介>

草津市国際交流協会（KIFA）1994年設立 当初は姉妹都市/友好都市との交流事業

2011年 設立20周年を節目にKIFAの草津市における役割の見直し実施

長期ビジョンの改訂 国際交流⇒国際理解⇒多文化共生へと

4部会制

「国際交流、国内交流部会」 「国際理解部会」日本人の国際理解推進

「広報部会」広報誌、HP、 SNS 活用

「多文化共生部会」外国人住民のニーズの把握と事業の設定

日本語教育の場の拡大、 やさしい日本語の浸透

多文化共生への市民の理解を促す啓発事業

BNN(びわこ日本語ネットワーク)の会員、 オリーブ（日本語教室）を支援

UDCBK(アーバンデザインセンターびわこ草津)におけるやさしい日本語サロン開催

文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 地域日本語教育実践プログラム（B）の3年目進行中

<活動内容>

日本語教育における地域連携と多文化共生推進にむけて

1. 課題

- ①生活者としての外国人の本当に必要なところにまだ日本語教育が届いていない
- ②日本語教室の学習者と地域住民の交流が少ない
- ③外国人が受け身で居場所と活躍の場が少ない
- ④地域住民や行政の理解が少ない

2. 課題解決のための方法と手順

- ① 現在ある日本語教室間の連携と課題の洗い出し
- ② 草津未来研究所のアーバンデザインセンターと連携し南草津駅前に「やさしい日本語サロン」を立ち上げ、外国人の居場所と情報発信に努める
- ③ 地域自治会の代表に声をかけ日本語教室の学習者たちと住民との交流イベントを企画
- ④ 市民活動団体と共催してワークショップを行う
- ⑤ まちづくり協働課と連携して行政向けの研修を行う
- ⑥ 大学の国際課、地域連携課の協力で日本語教室の運営
- ⑦ 広報課、FMくさつ、メディア関連と連携して日本語教室やその他イベント及び研修の広報

3. 成果

- ①南草津駅周辺に日本語教室がなかったのですが、2016年10月から UDCBK(アーバンデザインセンターびわこ草津)で「やさしい日本語サロン」を立ち上げる(多様な市民が集まるサードスペース)
- ② 文化庁事業2年目の集大成であるたぶんカフェファイナルに市議員や幅広い層の参加と人的ネットワークができた
- ③ 他の市民活動団体とつながり共催の事業をすることで、広く広報できた
- ④ 日本語支援者研修でグループ活動することにより、それぞれの教室間の情報共有できた。
- ⑤ 今まで出会うことがなかった外国人や日本人同士のつながりにつながった

4. 今後の課題

- ①外国人が主体的に行う事業の展開
- ②広域な多文化共生での連携
- ③情報が一部の外国人コミュニティにしか伝わっていない